



光の子だより

令和8年9月8日
千葉市立作新小学校
校長 金谷 英 味

学校教育目標:一人一人のちがいを大切に「かしこく あたたく たくましい」子どもの育成
～ 合言葉「さ・く・しん」を通して ～

今年は、日本をはじめ各国で自然災害の多い夏だったように思います。熊本県の地震、各地での線状降水帯による大雨、中国・ネパールでの氷河の崩落による土石流、フランスでの熱波等。いつも心のどこかで『対岸の火事』のように感じていましたが、8月13日(木)に起きた「令和8年8月千葉豪雨」では、自然の怖さを痛感しました。私はその日の18時頃、外出先から自宅へ車で帰宅途中でした。通常なら25分ぐらいの道のりですが、道路が川のようになり始め、あまりの恐ろしさに所々で、避難停車、迂回を繰り返しながら、3時間半かけてどうにか帰宅しました。翌朝、学校の様子を確認に来ましたが、放置車両や通行止めになっている箇所の多さに驚きました。幸い作新小学校の児童と教職員に大きな被害はありませんでしたが、色々と考えさせられました。同じ千葉市内の小学校では、体育館や給食室が浸水して使えなくなったり、通学路を変更せざるを得なくなったりと被害を受けている学校もあります。また、親戚や友人が被災されているという方もいらっしゃるかと思います。大雨・豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災された地域やご家族の方々が一日も早く穏やかな生活を取り戻せますよう、心よりお祈り申し上げます。

そして、9月6日(日)は翌日の千葉市に「レベル4 土砂災害危険予報」が気象庁より出たため、翌日の9月7日(月)は千葉市立学校が一斉臨時休業となりました。前日のうちに保護者や地域の皆様にお伝え出来たことは良かったです。私は、8月のような豪雨になると7日(月)の出勤に不安があることと、学校の不測の事態に備えるため、6日(日)の19時に学校に来て、誰もいない学校で一晩過ごしました。「校庭の水かさが増え、校舎に浸水してきたら」「雷が落ちて停電になったら」「避難所の開設が必要になったら」どう対応するかと心配なことばかりでした。しかし、何事もなく朝を迎えられ、最初に出勤してきた職員の顔を見て、ほっとしました。広い学校での夜、独りは正直、怖かった(いくつになっても、校長になっても)ですが、「今後もこのようなことがあるかもしれない」と思うと、よい経験が出来たと思っています。唯一、心を癒してくれたのが、校長室前の廊下で飼っている鈴虫が、夜も変わらずによい声を聞かせてくれていることでした。

8日(火)、子どもたちは何事もなかったかのように元気に通常通り登校してきてくれました。しかし、今後さらに、防災や、その際の対応について、教職員や近隣校(天戸中、長作小)と理解を深めていかなくてはならないと思いました。また、子どもたちにも自分で判断し、行動できる力を付けていく必要があると思いました。ご家庭でも、非常時の連絡手段や避難の仕方などを話し合っただけですようお願いいたします。

【校長室前の昆虫たち】子どもたちがよく見に来てくれています。

鈴虫コーナー

愛でてくれてありがとう
癒しの秋の声をありがとう

鈴虫のオスが翅を広
げて鳴いているところ♪

カブトムシたち
が仲良く食事中。

カブトムシコーナー

